

課題 214 データ連携・利活用による地域課題解決のための実証型研究開発（第2回）

分野横断的・産業横断的なデータ統合・融合による新たな価値創出を目指して

背景と課題

- 本実証型研究開発では、現代社会において少子高齢化の影響に伴い顕在化してきている地域が抱える多くの課題に対して、ICTによる地域経済の活性化や地域課題の解決を目指す。
- 政府においては、超スマート社会として「Society 5.0」の実現を推進するとともに、ビッグデータとAIの活用によるイノベーションや分野横断的・産業横断的なデータの連携・利活用を新たな価値創出等の重要課題としており、本研究開発でも中心課題とする。
※「第5期科学技術基本計画」「統合イノベーション戦略」
- 国立研究開発法人情報通信研究機構では、地域の多様なデータの連携・利活用により地域課題を解決するだけでなく、他分野・他地域での利活用を考慮し、IoTやソーシャルビッグデータの収集、流通、解析等に関する技術の研究開発・社会実証を推進している。本研究開発では、複数の分野でデータを利活用することやデータのオープン化などにより分野横断的な新たな成果を創出する地域課題解決のための実証型研究開発を目指す。

研究開発の目的

- 地域課題を解決する新たな情報通信技術の研究開発を目的とする。新たな情報通信技術は、単一分野だけでなく分野横断的・産業横断的な地域課題を解決する新規性を有し、得られたデータをより広く継続的に利活用可能な手法が望まれる。そのためのサービス基盤の構築等の具体的な提案を含め、多様なデータの連携・利活用を促すことを期待する。

研究開発の概要

- 研究開発課題は、提案者が具体的に実証地域及び分野を選定し、当該地域・分野の課題解決のため、分野個別の情報通信技術を複数の分野で利活用することやデータのオープン化などにより新たな成果を創出できるように設定すること。
- 提案する研究開発課題には、異分野データ連携、技術の融合、エコシステムの構築を踏まえたサービス基盤の構築、及び以下に例示するような事項に繋がること。
例1) データ流通やデータのオープン化の促進による良質なデータ収集
例2) 良質なデータの収集・オープン化による新たな価値創造
例3) 民間の取組が難しい条件不利地域や社会的弱者等の課題解決
- 提案する研究開発課題では、社会実装を意識した実証実験を実施することが求められる。

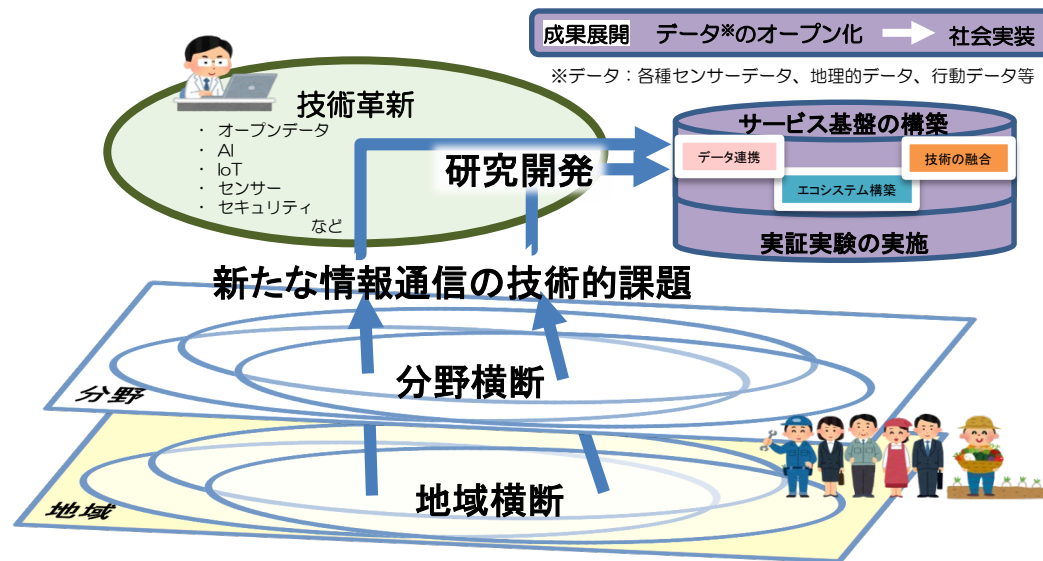


図 当該課題の対象、課題設定及び成果概要

研究開発期間：2019年度（契約締結日）～2020年度末
2019年度予算：1件当たり総額10百万円（上限）、採択件数：最大10件